

幕別区域事後評価第1回第三者委員会議事概要

1. 実施日 平成20年5月27日(火)
2. 場所 北海道中川郡幕別町^{なかがわぐんまくべつちよう}
3. 出席者

第三者委員	志賀 永一	北海道大学大学院准教授
〃	中嶋 康博	東京大学大学院准教授
〃	溝口 勝	東京大学大学院教授
〃	森 久美子	作家

(敬称略、五十音順)

事務局等 農林水産省農村振興局総務課課長補佐
国土交通省北海道開発局帯広開発建設部土地改良事業対策官
幕別町土地改良課
(独)森林総合研究所森林農地整備センター審議役 ほか
4. 現地調査の概要

区画整理、暗渠排水、客土を実施した団地及び農業用道路等の現地調査を行い、受益者から事業前後の農業経営の状況、事業の波及的効果等について聞き取りを行った後、第三者委員による意見交換を行った。

なお、井上委員は、都合により26日(月)に現地調査を実施した。
5. 第三者委員会の概要

委員長選出
委員長には、全会一致で中嶋委員を選出した。

8月の公表に向けた今後の委員会の運営
第三者委員会の今後の進め方については、今回の委員会での意見・指摘を踏まえ、事務局で基礎資料の整理を行い、次回の委員会で意見のとりまとめを行うこととした。

次回の委員会から傍聴及び取材を可とすることが決定された。

意見・指摘等
農業用道路の利用頻度も高く、有効に機能しており、必要性もよく理解できた。地域の要望に対して迅速に対応できたことが大きな効果であると感じた。

面整備については、個々に効果があるのは理解できるが、実施範囲をどのように決めているのか等、事業の公共性についてわかりやすく説明する必要がある。

澱粉用ばれいしょやビートについては十勝支庁管内に加工工場が分散しており、広域的な物流の一部を農業用道路が担っていることを基礎資料で表現すること。

基礎資料では費用対効果分析要因の変化をまとめているが、効果算定手法の視点と異なる部分がある。国民が理解しやすいように表現を工夫する必要がある。

地域農業生産状況の把握について、統計資料の精度を十分理解し、作物毎の動向を再調査して、説明資料に反映させること。